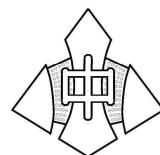


手をたずさえて

“KOHARADA WAY” 自分に打ちかて

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和2年11月18日(水)発行

【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

大切にしたい外部講師の方々からのお話

2年 薬物乱用防止教室

11月10日(火)の2年総合学習では、“ハーブ先生”ことハーブ研究家であり、郡山地区薬物乱用防止指導委員でもある瀧田勉さんをお招きし、薬物乱用防止教室が行われました。瀧田さんは本校の大先輩でもあり保護者でもあります。瀧田さんが持参された薬物キットをまわし見ながら教室が始まりました。

瀧田さんから乱用される薬物等についての説明があり、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」のDVDを視聴しました。その後まとめがあり、各クラスの委員長が感想を述べました。最後には保健委員会委員長の上野彩美さんがお礼の言葉を述べ、教室は終了しました。生徒の感想からも薬物の怖さ、恐ろしさを共有することができました。講師を務めていただいた瀧田さんに感謝いたします。

私は、今回の薬物乱用防止教室で違法薬物には隠語があることを初めて知りました。知っただけでなく、その隠語の由来や意味を丁寧に教えていただいて、とても分かりやすかったです。また、薬物が及ぼす人体への影響や誰かから誘われても1回でも絶対、薬物を使ってはいけないことの重大さを改めて感じる事ができました。DVDでもくわしく知ることができました。薬物乱用は最近ニュースでもたびたび報道されています。もし誰かから誘われても、この経験を心に留めて絶対にやらないようにして、「大丈夫。」と言われても必ず断るようにしたいです。

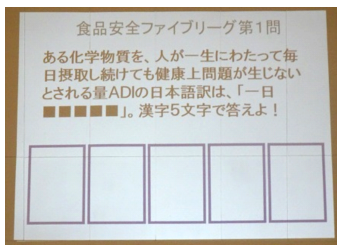
(2-3 宮田真由)

今までも薬物については知っていたのですが、今回の授業で初めて知ったこともたくさんありました。隠語などで呼ばれていたなら、確かに全く気づけないと思います。また、人体の影響を初めて詳しく知ることができました。薬物は脳のAI0神経を刺激して一度傷つくと一生治ることはないということを知って、薬物が人から全てのものを奪っていく怖さを改めて理解しました。今回習ったことをこれからの生活に生かせるようにして、違法薬物を決して使うことがないようにしたいです。(2-2 佐々木柚依)



1年 食品安全ゼミナール

11月11日(水)には郡山保健所職員の方々が来校され、1年生対象の「食品安全ゼミナール」が行われました。植物の毒性やアレルギー、農薬の使用などについてお話を聞きました。ときおり班ごとに解答するクイズなどを交え、楽しく学ぶことができました。ちなみに写真の問題ですが、「化学物質を毎日摂取し続けても健康上問題が生じないとされる量ADIの日本語訳は？」という問いで、答えは、「一日摂取許容量」でした。食品の安全については、ちょうど家庭科の授業で学習したばかりで、今回のゼミナールとうまく繋がっていました。最後の質問コーナーでは、2名の男子から質問が出されました。アニサキス(魚についている寄生虫)の問題と手洗いの方法についての質問でした。保健所の方から丁寧に説明していただきました。食品安全に関してとても意識の高い1年生男子でした。



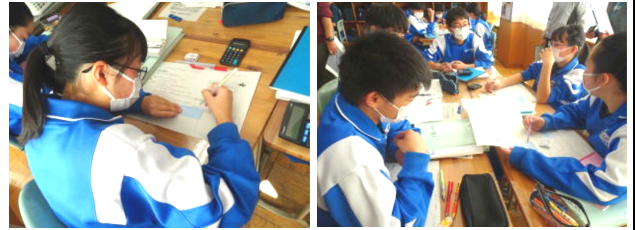
食品安全に関してとても意識の高い1年生男子でした。

コロナ禍の中、外部講師の方を招いての学習活動は、放送による講話に切り替えて実施するなどしていましたが、2学期からは直接お話を聞く機会を設けることができるようになりました。専門家の方のお話を聞くことの意義を考え、今後も大切にしていきたい学習活動です。



1回1回の積み重ねが重要…それが高校入試に繋がっていく

11月20日（金）には、1・2年定期テストⅢ、3年実力テストが実施されます。テストにおいて一番の関心事は「点数」でしょう。しかし、忘れてはいけないのは、テストに至るまでの「過程」です。まさに今です。テスト当日までの自分の努力の度合いがどの程度だったのか、後で振り返った時に「もう少しやっていたら…」という反省が出ないようにしてほしいと思います。テスト前の「部休日」をどう過ごしていますか？今は学習中心の生活となり、必然的に家庭学習時間が増えていなければなりません。そして、1回1回のテストの積み重ねを大切にしていくこと。この積み重ねの延長線上に高校入試があるのです。次の事柄を実行していけば、必ず向上していくと考えます。



家庭学習 「書くこと」を重視する。（何度も書いて覚える。文章で説明したり表現したりする。）

テスト当日 テストの受け方を再確認し実行する。

（入試の鉄則『解ける問題から解く』、つまらないミスがないかどうかを見直す習慣、最後まであきらめない、文字・数字をていねいに書くなど）

テストの後 テストの後もぬかりなく次のことを実行する。

- ① 解答用紙が配付されたら、模範解答を作成する。
- ② できなかった問題は、なぜ間違った（できなかった）のかをはっきりさせる。分からなかったら、先生に自分が納得するまで質問し解決する。
- ③ もう一度何も見ないで問題を解いてみる。
- ④ 問題用紙と模範解答をファイリングする。これからの実力テストや入試対策に役立つ時が必ず来る。

2年数学『一次関数』研究授業“学び合う姿”



“人が車と同じ道路にいる限り…” 交通事故防止について

道をてくてく歩く子どもたちの目には何が映っているのだろうか。何十年と続く本誌「こどもの詩」欄を眺めていると、散歩を題材にした作品にしばしば出会う。小鳥のさえずりを聞いたり、昆虫や野花を見つけたり、足元にくっついて離れない影法師をふしぎがる詩もある。

自分の影が前になったり後ろになったり／影が一人でさん歩しているみたいだね （小学3年男子）

きのう滋賀県大津市の空はよく晴れていた。お日様の下、小鳥やチョウや花や影法師に見とれた子もいただろう。保育園児の集団に車が突っ込んだ。幼い瞳にはあまりに凄惨な事故の景色である。園児13人と保育士3人が病院に運ばれた。このうち園児2人が亡くなり、1人が意識不明の重体となっている。血の痕と散らばった水筒が残される現場で女2人が逮捕された。一方が右折しようとしたところに、一方が直進して衝突し歩道に乗り上げたという。交差点でよくある事故にちがいない。

よくある、と書いてゾッとする。じつは散歩も安全ではないのだと。人が車と同じ道路にいる限り、解決をみない事故である。車社会の暗部だろう。 ～読賣新聞 2019年5月9日（木）朝刊「編集手帳」～

昨年5月に起きた心の痛む凄惨な事故をうけての新聞記事です。危険回避のために、どんな安全対策をとったとしても、防ぎきれない事故。「人が車と同じ道路にいる限り、解決をみない事故である。」という言葉に集約されています。しかしながら、“自分の命は自分で守る”という意識は決して失わないでほしいと願います。先日教育委員会より「緊急通知」が出されました。市内児童生徒の交通事故が、10月は平成30年以降における月別事故発生件数最多の7件、11月は15日時点ですでに6件発生し、計13件のうち自転車乗車中の事故が9件、重傷事故が2件という大変危惧される状況にあるとのことです。次の点を遵守しましょう。

- 1 飛び出しは絶対にしないこと
- 2 道路を横断するときは、必ず一時停止し、左右の安全確認を十分に行うこと
- 3 自転車に乗る際は、ヘルメットを着用すること（あごひもをゆるまないように締める）
- 4 車や自転車に接触した際には、すぐに保護者や学校に連絡すること

